

## 横田の空兵、エアリフト・サージで団結 *Yokota Airmen team up for airlift surge*

May 9, 2018

By Staff Sgt. David Owsianka  
374th Airlift Wing Public Affairs

横田基地で5月4日、第36空輸中隊と第459空輸中隊は、2014年以来初の、第374空輸航空団機動演習(通称:エレファント・ウォーク)を実施した。2つの中隊による合同演習には、12機のC-130Jスーパーハーキュリーズ、3機のC-12ヒューロン、2機のUH-1Nイロコイが参加した。

エレファント・ウォークは、横田基地所属の航空機を最大限に機動させる演習で、編隊飛行によって航空機が将来のシナリオを想定した必要な訓練を行うもの。その編隊飛行は関東平野や富士山周辺で行われた。

「我々は、必要時に管轄区域内でいつでもどこでも支援を提供できる即応能力があることを確かめるために、大規模な機動演習エレファント・ウォークを行った。特に素晴らしかったのは、2機のスーパーハーキュリーズが到着にして一週間も経たないうちに、演習に参加できるように整備士たちが整備をしたことだ」とジョナサン・スラジ少佐は語った。

編隊飛行で、航空機乗務員たちは海上や山岳地帯を飛行し、また横田の飛行場に砂袋の投下を行い、編隊飛行中の戦術能力の向上を図った。

「2機の航空機は、他の任務にあたっていたが、この演習では、今回のように直ちに任務を遂行しなくてはならない場合を想定した即応能力を試すことができた。新型JモデルC-130は、航空機を導入して任務遂行の際の能力を拡大した」とスラジ少佐は述べた。

航空機乗務員たちが実際の任務を行ったとはいえ、彼らだけではそれを達成することはできなかった。飛行場運用、航空管制、航空機整備などの幾つもの部隊が協力し、訓練を成功させた。

「演習は、我々がこの地域で任務を果たすための複数の部署の連携力を示した。定期訓練飛行を継続しながら、同時にこの訓練で全ての航空機が任務を遂行できるよう、今週何時間も時間を費やした」と第374航空機整備中隊製造監督官エディー・ヤバラ曹長は述べた。

2つの訓練のシナリオにより、基地の空兵たちは、基地の航空機を直ちに機動させる際はその能力を直に見ることができた。

「このエレファント・ウォークの準備のために費やした皆の労力のすべてが成功をもたらした。演習に参加するため、全ての航空機を準備できることによって、パイロットたちがその全ての航空機を一斉に機動させる能力を試すことができた」とヤバラ曹長は述べた。

「横田基地にとって、新型C-130Jでエレファント・ウォーク演習や編隊を行ったのは今回が初めてだった。横田基地に14機のスーパーハーキュリーズの配備が完了したことによって、この太平洋の主要な航空兵力の拠点から、迅速な機動力を提供することができる。横田基地は、太平洋の主要な航空兵力の拠点としての重要な役目を担いながら、将来に目を向けていく」とロバートソン大佐は述べた。

